

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2026年3月

第143号

主な予定

3月29日(日)

13:00~16:00

保全活動報告会

於：東京大学柏キャンパス

5月10日(日)

第17回通常総会

於：管理棟前

第8回 柏ネイチャークラフト展 2026

高山 武俊

第8回柏ネイチャークラフト展が2026年2月14日(土)~22日(日)の9日間、あけぼの山農業公園資料館2階会議室で、【主催】柏市里山ネットワーク、【協賛】あけぼの山農業公園、【後援】柏市、柏市教育委員会、(一財)柏市みどりの基金により開催されました。園内には百数十本の梅の木が今を盛り紅梅白梅と咲き、カメラを掲げた男性や、3~4人グループのご婦人や若い親子の方などで賑わっていました。

ネイチャークラフトとは・・・「自然の素材を使ってつくる工作」、「森の恵みを活かした昔ながらの伝統工芸」などを言うそうです。

会場に入ると会議室の真ん中に自然の草木やふじ蔓の老木などで見事な生け花の世界を中心に、周りを取り囲むように作品がそれぞれの団体ごとに飾られており、素晴らしい雰囲気を出していました。主催者である柏市里山ネットワークの大久保事務局長の案内で自然素材による繊細な枝絵アート、丹精込めて作られた植木の小鉢群、杉皮による自然素材の小鳥の巣箱、竹灯籠、竹製のスマートフォンの音響機器、などいろいろと工夫された作品が展示されており見学させていただきました。今年は竹製品に力を入れたことのことです。枝絵アートの体験ワークショップは土日に開催するとのことでした。

こんぶくろ池自然の森の展示コーナーは全体の40パーセント位を占めており、園内の希少植物 動物(たぬき、うさぎ、小鳥、きじなど)、昆虫 花などの写真をバックに展示して、リース、植物ちぎり絵、小鳥の巣箱、ふじ蔓・クズ蔓のかごや花き、竹花き、竹とんぼ、竹足踏み、忘年会のぐい飲み、箸、竹灯籠、中川恵美さんの手の込んだ刺繍によるクロスステッチなどの展示がありました。「こんぶくろ池事務局の中川さんに、大変熱心に協力していただき展示会も大変助かっています」と大久保事務局長さんよりお礼の言葉をいただきました。

私は、毎回何点か新しいものをと考えています。今回は園内のワークショップで作ったリース数点に加え、アズマネザサと茅の一種(オギ?かやぶき屋根の材料)で編んだスタレに、夜の昆虫観察会の時に観察された“蟬の羽化”(上田さん撮影)と、園内の植物の写真などをスタレに張り付けた作品を展示



しました。スダレは園内の落枝から昔の俵あみ器具を模倣してつくり、作業室で子供のころ親たちの作っていた俵やむしろなどを思い出しながらタコ糸で網みあげたものです。

柏ネイチャークラフト展は公園の満開の梅園とともに、会期中に1200名超の来場見学者があり、こんぶくろ池のリーフレットも150部ほど持ち帰られ、盛会裏に行われたとのことでした。次回もまた新しいものを取り入れながら、自然の素材を使って作る工作や、森の恵みを活かした昔ながらの伝統工芸品をつくり、地域の人々に楽しんでいただきながら、次の世代の人たちに日本の昔の良さを伝えて行けたらと思います。次回も多数の皆さまの出品参加をお待ちしています。



イチビの花は東へ西へ

橋本谷 弘司



イチビの花

当園のワタラセツリフネソウエリアの近くに黄色い花が9~10月頃に咲きます。イチビと言う名の花で原産地はインドです。東回りで中国に渡り、繊維作物として品種改良が行われ、やがて日本に入ってきます。

イチビ（栽培型）は収穫後、乾燥させたのち水に浸して腐敗・発酵させて、茎の表皮の下の繊維をとります。他の繊維植物と混ぜてロープや麻袋が作られていました。

一方西回りでは雑草として、ユーラシア大陸西端のヨーロッパに到達し、アメリカンドリームを求める開拓者たちとともに、大西洋を渡りアメリカ大陸にたどり着きました。アメリカ大陸の広大なトウモロコシ畑の中で、競い合うようにイチビは成長します。

アメリカから輸入したトウモロコシの中にイチビの種子が紛れて日本にやってきました。輸入されたトウモロコシは家畜の餌となり、消化されないイチビ（雑草型）の種子を含んだ牛糞が畑に散布され広がって行きました。

形状から見た栽培型と雑草型の違いは、成熟した蒴果の色は雑草型が黒く、栽培型は黄白色ですが、繊維植物としての役割を終えて100年近くたちますので現在では雑草化して、ほとんどすべての蒴果は黒くなるタイプです。



イチビの蒴果（果実）



イチビの繊維
(水巻町歴史資料館 HP より)

日本には東回りと西回りの二種類のイチビが存在しています。インド原産のイチビは、どのような道の手を経て当園にたどり着いたのでしょうか？

当園のイチビは今のところ他の植物に悪影響を与えていませんが、外来種ですので様子を見守って行きたいと思います。

令和八年冬季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

凧（こがらし）や口笛吹いて上機嫌	あおはもゆ
冬の朝裸足にサンダル可燃の日	あおはもゆ
駅を背に溜息さえも凍む夜よ	あおはもゆ
湧水の恵みを辿る冬日和	木下勇二
シガミの落葉ひと吹きハート形	木下勇二
除夜の鐘 響くや池の氷まで	笑昇
雲隠れ 願い届かぬ 初日の出	中川望
水仙の花をめでつつ 歩む朝	中川望
草原(くさはら)に ポツンと一つ 雪だるま	中川望
氷雨下で エサをついばむ 野鳥たち	中川望
泥上げや 同志探すも冬の空	ノー・ボール
初笑い午を走らせ志の輔座	秀夫
冬来りマスク姿の初老人（びと）	P助
寒暁や白き半月静謐也	まさえ
衣更着のおしくらまんじゅう冬芽連	まさえ
水鳥の水掻き軽し沼の立春（はる）	吉川億劫
立春や日ごとに増える花の顔	吉川億劫
こんぶくろ池の浮葉や神無月	わらしべ

短歌の部

ほろ酔いの正月二日は初詣	
善男善女が香取神社へ	Q太郎
こんぶくろ総出でかいぼり 顔に泥	
手足もちろん べたべた餡子（あんこ）	笑昇
どっしりと 腰据え動かぬ アオサギよ	
坐禅の極意 無我の境地か	中川望
銀斜面 転んで滑ってまた転び	
孫娘（まご）に手を借りハイタッチ	ノー・ボール
奥山に湧き出す翡翠の露天風呂	
スキーの疲れ湯霧に消えゆ	秀夫
新年の笑顔が嬉し年の瀬は	
伊達巻き巻いて雑煮三リットル	まさえ
ナラ枯れで切り倒された大木に	
真冬の最中（さなか）にキノコの生える	わらしべ

あしがき

去年の冬は少雨でしたが、今年の冬は雨がほとんど降らずこんぶくろ池が干上がってしまいました。半面絶好の浚渫環境ともいえますので浚渫作業が進められました。このような森を大切にする仲間延べ11名の方から作者それぞれの持ち味を生かしたオリジナリティとリアリティが光る俳句18句、短歌7首が寄せられました。

自分はそんな柄じゃないと思っている読者がおられるかもしれませんが、実は作者の皆さんは、全員が全くの素人から始めています。未投稿の読者のみなさんもここで思い切って俳句・短歌の道へ一歩踏みだしてみませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。

今回は春季（令和7年3月～令和7年5月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールやメモでも結構ですので応募をお持ちしています。